

# まきば通信

第29号

## 絶対に過ぎ去らないもの

～「まきば」の歩みを顧りみて～

愛知老人コミュニティーセンター運営委員  
シルバーホーム「まきば」前施設長

森岡 廣實



「まきば」が発足以来あと半年足らずで20年になろうとしている。その間、10数年の歩みを導いて来られた篠田先生と鈴木施設長に心から感謝と敬意を表したいと思います。「まきば」は、ひと時も気を抜けない厳しい現場です。その「まきば」を10数年もの長きに亘り運営され、数年前には一般経済誌で日本一と評価されるまでに育て上げられたお二人の努力とその足跡は、「既にごったもの」ではなく、「絶対に過ぎ去らないもの」として祝福されるものであると思います。

「まきば」が始まった頃、3年余りその経営に関わらせて頂きました。その頃の思い出を少しお話いたします。当時、「まきば」は大変な職場でした。就任後、2つの大仕事がありました。「介護棟建築」と「青天井問題」の解決でした。「介護棟建てよ!」の大合唱が鳴り響いていました。

理由は、入居後、数年で重度要介護者になる方が急増したからです。設計や資金もクリアし、「いざ建築!」

と成ったとき、突然、資金がストップされたのです。ビックリしました。現場は大慌てでした。幸いにも、祈りながら模索する中、若いヘルパーさん達の助けを得て人海作戦で急場を切り抜けることが出来ました。

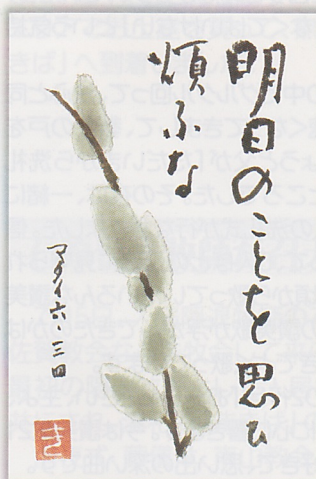
その内、「お部屋で手厚いお世話をして頂き有難うございま

す」との声を聞くようになり、ほっとしました。この時、私が肝銘をうけたことは、神は外的備えをすぐに与えるのではなく、試練を与えて「内なる備え」を充実させて下さるのだと言うことでした。現在は、介護棟に代わる素晴らしい外的備え、「新館」が与えられています。感謝!

次に、「青天井問題」の取り組みがありました。「まきば」は、都度徴収方式を採っていましたが、介護保険制度で決まっているサービスを上回る手厚いサービスには上乘せ料金を頂いていました。そのため、思わぬ問題が起きていたのです。要介護者の中に止めどもなくサービスを要求する人が出てきて上乘せ料金が、「青天井」のように「高く」なっていたのです。「まるめ方式」への変更を訴えたのですが、無理でした。すったもんだの末に、「介護度別一律料金方式」で一件落着となりました。しかし、全国の有料老人ホームの中で、この方式は、「まきば」だけのものでした。

「まきば」の歩みを振り返ると、その時々に関わりの中で祈りをもって次の一歩へと連らなり進んでいると思います。しかし、その歩みを生み出すには、「生みの苦しみ」があり、この世的な「思い煩い」もあります。篠田潔先生の「聖句画」に、「明日のことを思ひ煩ふな」のみ言葉が記されています。

「まきば」の次への一歩は、「思い煩い」から生み出されるのではなく、真に神に委ねて進む一歩でなければと思います。それが「絶対に過ぎ去らないもの」に連なる更なる歩みとなるのではないのでしょうか。



▲篠田牧師の聖句カード

# わたしの愛唱讚美歌

その2

前号に続いて、ご入居者の皆様の愛唱讚美歌を紹介するシリーズの第2回です。好きな讚美歌にまつわる思い出などを伺ってまいります。

杉山 なおみ姉  
(名古屋教会)



讚美歌 (54年版) 496番

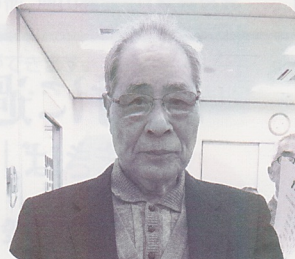
うるわしの白百合 ささやきぬ昔を  
イエス君の墓より いでまし昔を  
うるわしの白百合 ささやきぬ昔を  
百合の花、百合の花 ささやきぬ昔を

クリスチャンホームで生まれて幼児洗礼を受けていたので、小さい時から讚美歌には親しんで育ちました。今の名古屋北教会がある場所に清水教会という教会があって、家から5分くらいの近所だったので、幼いころから通っていました。金城女子専門学校高等女学部2年生の時に信仰告白をして、西端牧師のお嬢さんたちが同世代だったことから、礼拝が終わっても1日教会で過ごす、夕拝にも参加していました。小学校4年生くらいからピアノを習い始めていたので、夕拝ではオルガニストも務めていました。

そのころ、教会の友達とよく歌っていたのがこの「うるわしの白百合」という讚美歌です。金城女子専門学校に栄光館ができた頃、大きな「十字架と百合」のマークを見上げて、友人たちとこの曲をよく歌いました。メロディーが他の讚美歌と少し違っているところが良かったし、それに伴奏の中にある独特のリズムが好きでした。特に「ささやきぬ昔を」の後の「百合の花、百合の花」の繰り返しのところが好きで、ソプラノとアルトに分かれてよく歌いました。その後、清水教会は名古屋教会と合同したので、名古屋教会に出席するようになりました。

戦後、進駐軍が栄の住友銀行の2階で礼拝をしていましたが、赤石牧師に連れられて行ったことがあります。アメリカ村に住んでいた家族も含め、アメリカ人ばかり50人くらいの礼拝出席者の前で、お嬢さんの赤石百合子さんがピアノを弾いて私がこの曲を独唱しました。懐かしい思い出です。今はあまり歌わなくなった讚美歌ですが、いろんな思い出のある曲です。

山本 登 兄  
(南山教会)



讚美歌21 510番

主よ、終わりまで しもべとして  
あなたに仕え しががいます。  
世のたたかいは はげしくても  
主が味方なら 恐れはない。

洗礼を受けたのは昭和18年8月22日、13歳の夏でした。当時は戦争中で、牧師も信徒も勤労奉仕に駆り出されて、礼拝は夜7時から守っていました。今は瑞穂にあります。当時は沢上にあった尾陽教会で父と母が牧会をしていました。朝、「今日は洗礼式をするから早く帰って来なさい」と言われて家を出ました。そのころ私は、小牧空港を造る勤労奉仕に従事する毎日でした。

「洗礼式をする」と言われて家を出たのですが、私の心には迷いがありました。奉仕作業が終わって、春日井から上飯田の先の三階橋まではトラックで送ってくれましたが、そこからバスに乗るお金を持っていなかったため沢上まで歩いて帰りました。迷いながら、ゆっくり歩いていると、自然にこの歌が浮かんできました。「主よ、終わりまでしもべとして〜…」と口ずさみながら歩いていたら、「あ、やっぱり洗礼を受けなくてははいけない」という気持ちになってきました。

この曲と使徒信条が頭の中でグルグル回って、決心と同時にだんだん歩く速度が速くなってきて、教会の戸をガラガラッと開けたら、ちょうど父が「ただいまから洗礼式を始めます」と言ったところでした。その夜は、一緒に受洗した2人と並んで、3人の洗礼式が行なわれました。信徒の多くが出征してしまっていて、5人ほどの信徒に見守られながらの洗礼式でした。日頃から歌っていたいろんな讚美歌の中で、何故その時、この讚美歌が浮かんできたのかはわかりませんが、今でも好きでよく歌っています。

1番の1〜2行目と、3番の2行目「お語りください、主よ、みことば」という歌詞が特に心に響きます。今は讚美歌21になっていますが、昔から好きで、思い出の深い曲です。

# まきばトピックス

このページは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や出来事を紹介するコーナーです。

## 県会議員を講師に招いて防災訓練を実施しました

5月17日、愛知県議会議員・福田よしお先生を講師に招いて、恒例の防災訓練を行いました。福田議員は消防大学校出身で、尾三消防組合の消防指令センター長や東郷消防署長を経験した防災のスペシャリストであり、全国47都道府県でも唯一の消防士出身の県会議員です。

避難訓練から消火訓練、そして全国の大震災の現場で対応してきた経験による講演と、有意義な学びの時間になりました。



▲訓練に参加するご入居者の皆様

▲福田県議による模範消火訓練



## 新東名を走って奥三河に行ってきました

4月21日、久しぶりに春の行楽に行きました。東名高速道路が豊田ジャンクションから新東名高速道路に接続して開通したので、早速、新東名を体験してみようと企画しました。

ご入居者様5名と、運転手を含む職員3名の、8名で出かけました。行先は長篠古戦場公園でしたが、向こうへ着くころにあいにくの雨模様となってしまいました。しかし、その分、長篠城址史跡保存館をゆっくり見て回り、戦国時代の歴史を学ぶことができました。

昼食は、地元の老舗うなぎ屋で名物の鰻重を堪能し、満足して帰りました。途中、できたばかりのサービスエリアでお土産を買って、無事に「まきば」へ到着しました。



▲火縄銃を持って記念撮影

▲うなぎで昼食

## 石原信良牧師が召天されました

7月5日、入居隠退牧師の石原信良先生が天に召されました。佐賀教会などを牧会して来られた先生は、「まきば」が開設して最初の隠退牧師として入居され、12年間「まきば」での生活を共にされ、温和で「まきば」の為にいつも祈って下さいました。

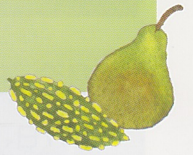
前夜式、葬儀は、南山教会で行われました。



特別企画

シルバーホーム「まきば」開設20年を迎えるにあたって  
戸田伊助牧師に聞く

インタビュー：愛知老人コミュニティセンター推進委員 小田部 正一



シルバーホーム「まきば」は1997年1月6日に開所して、間もなく20年になろうとしています。この記念すべき節目に当たって、戸田先生に設立当時を振り返っていただきました。



▲小田部委員と対談するご夫妻



**Q** 「まきば」を建設するに当たっては、多くのご苦労があったと思いますが、最も苦労された点をお聞かせください。

戸田先生：「まきば」を生み出すのに、自分自身が何か痛みを負うとか、特別苦労したということはないように思う。ただ、教団の牧師の「ついのすみか」としての場を造らなければならないという気持は、強く感じていたと思う。牧師が高齢になって教会を去るとき、牧師館を出なきゃいけない訳だが、その時に行き場がない牧師がいたんだ。

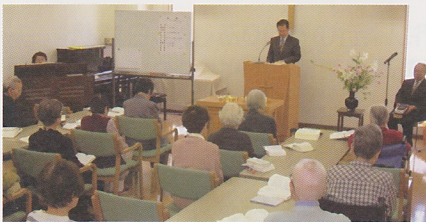
名古屋教会時代にも、教会に来ていた障がいを抱えた子どもたちの働く場所がなかった時に、子どもが神様に祈ったんだよ。そしたら、「さふらん」ができたんだ。さらに、地域の小学生たちが放課後、家に帰っても誰もいなくて淋しい思いをしていたんだよ。その子どもたちや親に寄り添う形で、学童保育「はこぶね」ができたんだ。私のやり方はね、ここに泣いている人が

いたら寄り添うという仕方で行動すること。そうしたら、そこに思いを同じくする協力者が与えられたということだ。だから「まきば」は、求めに対して素朴に応えた結果にできたものだという気がするなあ。

**Q** シルバーホーム「まきば」という名前ですが、どなたが考えられたのですか？

戸田先生：この土地を提供してくださった、尾関さんの協力があったからできた訳で、愛知牧場の中にあるということが大きく影響していると思うけど…。感じとしては、自然に出てきた名前じゃないかと思うなあ。





▲施設内での礼拝



▲入居隠退牧師による神学研究會



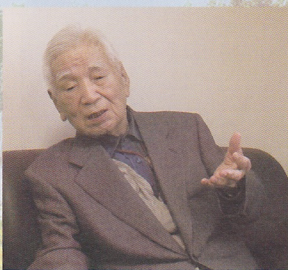
**Q** 先生ご自身が「まきば」に入居されたわけですが、入居される時、ご自身の故郷(出身地)に帰ろうとは考えられなかったのですか?

戸田先生：私の故郷は会津です。確かに、生まれ育った場所で、友人知人がいて、昔懐かしい場所ではあるけれども、その人たちを信仰的な協力者としては見られないし、帰ろうって気はなかったなあ。考えなかったよ。

**Q** 今の「まきば」はどうですか?

戸田先生：晩年をこうして「まきば」に入居して暮らせることは感謝だよ。ただ、今の私の立場で、この施設をどうこう言うことはできないねえ。

もし、事業家的な人がやっていれば、もっと大きな施設を建てたんじゃないかと思うなあ。でも、良い後継者に恵まれて、良い施設になったなあと思っているよ。



▲戸田先生



▲戸田澄子様



▲裏庭遊歩道を散歩

# 施設長が行く!

その2

27号で、施設長による出張公演の働きを紹介したところ、早速、要請をいただき、喜んでお伺いした記事を28号で紹介しましたが、引き続き声を掛けていただき、出張してまいりましたので、またまた今号でも紹介させていただくことにしました。

ますます多くの皆様にシルバーホーム「まきば」を知っていただく機会になれば幸いです。



▲鈴木施設長

## 中部学院大学

岐阜県関市にある岐阜済美学院中部学院大学では、毎週チャペルアワーを開催しています。6月6日、岐阜済美学院の理事でもある施設長がメッセージに出向きました。パイプオルガンの奏楽で始まる礼拝には、多くの学生が集まり、メモを取りながら熱心に聞いてくれました。

将来、看護・介護を目指す学生たちに「聖書が語る介護の心」を伝えてきました。



## ベタニアチャペル

6月21日、日進市岩崎町にある、ベタニア・クリスチャン・アッセンブリーズ、ベタニアチャペルに行ってきました。幼稚園も運営する、地域に開かれたこの教会は、毎週「ライラックの会」という近隣のお年寄りを対象にした集会を持っています。

今回は「有意義な老後の暮らし方」をテーマに講演してきました。



## あみ愛実の会

7月28日、障がいを持つ方が安心して地域で生活することができるよう支援する「愛実の会」で、アトラクションの一環として落語のご奉仕をさせていただきました。このNPO法人の代表でもある島しづ子牧師や入所者・職員の皆様にも、一緒に笑っていただくことができました。



▲プレゼントをいただきました



▲全員で記念写真

## 地域高齢者の集いコミュニティーサロン

日進市では、市内6カ所の福祉会館で、週に一回、介護予防プログラムを開催しています。地域の民生委員が中心になって、体操などで体を動かしたり、ゲームなどを通して地域高齢者の交流を図っています。

「まきば」も地域に貢献する施設として、施設長が落語を披露して楽しんでいただいています。



### 日進市南部福祉会館

2月20日、名鉄豊田線日進駅の近くにある南部福祉会館へ行ってきました。



### 日進市北部福祉会館

4月18日、日進市の史跡、岩崎城址の麓にある北部福祉会館へ行ってきました。



### 日進市相野山福祉会館

4月19日、桜の名所、五色園の近くにある相野山福祉会館へ行ってきました。



## 日本基督教団中部教区総会

5月24～25日、2016年度中部教区総会が名古屋中央教会を会場に開催されました。日本基督教団のセンターとして中部教区が運営する「愛知老人コミュニティーセンター」と「まきば」の運営状況について報告しました。好意的な拍手をいただき、承認されました。



## 愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

### 献金者芳名 (2015年4月1日～2016年3月31日)

教会福祉献金	匿名 3名様	金額 59,604,010円
センター維持献金	下村徹嗣様、加藤久雄様、遠山洋子様・水野紀子様、小崎 眞様、渡辺郁男様 深谷佐和子様、荒川仁志様・伊藤ゆり子様、高橋潤様・美智子様、真木芳子様 三澤克己様、丹羽三夫様、岡田詩緒子様、江本菜穂子様、岸本英博様 名古屋中村教会様、愛知東地区教師会様、名古屋中学校・高等学校様 岡崎教会様、岡崎教会泉の会様、広路教会様、中部学院大学宗教委員会様 中村俊一様・中村省三様・中村吉雄様・平岩達夫様・後藤由美子様 中京教会様、南山教会様 他(匿名) 17名様・「礼拝」での献金 11口・「聖書の集い」での献金 18口	金額 783,600円
		合計 60,387,610円

皆様のお支えに感謝します。

献金  
振込先

① 三菱東京UFJ銀行 日進支店  
 (宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
 理事長 篠田 潔  
 普通口座 1162658

② 郵便振込  
 日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
 振替番号 00870-4-29934

## 入居予約受付中

見学や体験入居もできます(要予約)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
silver home

# まきば

シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……  
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、  
緑豊かな自然に包まれて暮らす…  
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

### 交通機関

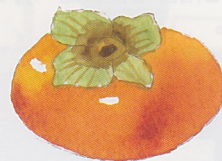
名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m  
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エビック南から200m

### 類型及び表示事項

施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式  
介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護  
入居時の要件/60才以上で入居時自立及び要支援の方  
居室区分/個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制/2:1以上

### キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈禱会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」にも自由に出席することができます。



●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

## スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、  
人格を大切に守る介護を実践してみませんか?  
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。

### 看護職員(昼間)

週1日~5日

【資格】看護師、准看護師

【勤務】基本は9:00~18:00(休憩1時間)  
ですが、短縮勤務も可能です。

### 看護職員(夜間)

週1日程度から。曜日に限定がある方は相談  
に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00~翌8:00(仮眠4時間あり)

【手当】精勤手当あり



●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当:小中)

### 編集後記

「今後、かつての戦争の記憶は、生きた体験から文字化された歴史へと変化する。」戦後70年を迎えた昨年8月によく聞かれた言葉です。「まきば」で暮らす方々も、そのほとんどが戦争の生き証人、ご家族の戦死や恐ろしい空襲を経験されています。あの過ちを繰り返さぬよう、歴史記憶の「認知症」に注意すべきは、むしろ戦後世代の私たちなのかもしれません。開所20周年を迎えようとする「まきば」が、これからも平和を願う祈りの場所であり続けよう。 (岩本)

